



大分県は、県内の9月の延べ宿泊者数は 22 万 936 人で、前年同月に比べ 35・5% (12万 1642 人) 減ったと公表しました。

9月延べ宿泊22万人

県内 外出自粛前の水準に

県は20日、県内の9月の延べ宿泊者数は22万936人で、前年同月に比べ35・5% (12万1642人) 減ったと公表した。新型コロナウイルスの影響は続くものの、外出自粛が深刻化する前の3月の水準に戻った。

一、前年を上回った。メインの日本人客は22万644人で28・4% (8万7478人) の減。地域別の最多は福岡県の8万3622人。3・9%減だったが、前年並みの水準に回復した。続く大分県内は4万4438人と0・4%の増。「Go To」に加えて県、市町村の独自の宿泊割引策が後押しした。福岡、大分以外の「その他九州」や近畿、関東は約40%減。

外国人客は292人と99・2% (3万4164人) 減。入国制限により「ほぼ皆無」の状態が続く。観光政策課は「10月は連休がない上に県内で再び感染者が確認され、どこまで回復するかは見通せない。ただ『Go To』の対象地域に東京も加わり、全国的に旅行マインドは上がっていくのではないかと期待した。宿泊者数は県が観光統計の一環で調査。毎月、従業員10人以上の県内の主な施設(170カ所)を対象に実施、推計している。(渡辺大祐)

① 宿泊者数が減っているのはなぜですか？

.....

.....

.....

② 宿泊者数が一番少なかったのは何月ですか？

.....

③ 宿泊者数は外出自粛が深刻化する前の3月の水準まで回復しました。その理由を2つ挙げてください。

.....

.....

.....

.....

.....

④ 県の観光政策課は、今後どうなると考えていますか？

.....

.....

